

# あと1年、イラクで何するの？ 自衛隊の派遣延長に反対です。

## 12月14日で期間終了 小泉首相は延長を表明

イラク特措法による自衛隊の派兵は、12月14日で1年を向かえ、期限切れとなります。ところが小泉総理は、「1年間の期間延長」を行おうとしています。

いまイラクでは、占領抵抗勢力（レジスタンス）と米軍の戦闘が激化しています。11月にはファルージャで、レジスタンス1600人が殺害される大規模な戦闘も行われました。

イラク特措法では自衛隊の活動を「非戦闘地域」に限定していますが、イラク全土が「戦闘地域」なのです。

## 自衛隊は何をしているの？ 給水活動はNGO以下

イラクには陸上自衛隊約600人と、航空自衛隊員約200人（一部はクウェート）が駐留しています。陸上自衛隊の役割は、給水活動や医療活動、破壊された建物の建築などです。

しかし自衛隊の1日の給水量は200トンから280トンで、フランスのNGOの600トンから700トンに比べても半分です。建築作業も現地業者の監督が主な仕事で、「自衛隊でなければダメ」というわけではありません。

しかも600人のうち3分の1は戦闘が任務の警備要員で、復興支援は行いません。また航空自衛隊の主な任務は、米軍物資のイラクとクウェート間での輸送であり、こちらも復興支援には関係ありません。

## 各国は続々撤退 日本はいつまで駐留を？

日本の報道を見ていると、世界中の国々がイラクに軍隊を派遣している錯覚を受けます。しかし、下の表を見ていただければ分かるとおり、自衛隊の派遣隊員数は、来年中には第6位になります。

米国はイラクへの攻撃に際して、「大量破壊兵器の保持」を理由にしました。しかしイラクが大量破壊兵器を持っていなかったことを、米国は正式に認めました。米国によるイラク戦争と占領には、どのような国際法の根拠もありません。

戦争の大義が失われ各国が撤退を続ける中で、日本はいつまで駐留を続けるのでしょうか。

### 各国のイラクへの派兵状況

第1位	米国	約13万8000
第2位	英国	約8500
第3位	イタリア	3085
第4位	韓国	約2900
第5位	ポーランド	約2400
		（05年末までに撤退）
第6位	ウクライナ	1632
		（04年末撤退）
第7位	オランダ	約1300
		（05年3月撤退）
第8位	オーストラリア	約920
第9位	日本	約800

連絡先